

啓発資料

# 同和教育つうしん

第25号

発行 長野県教育委員会同和教育課  
発行人 小幡誠宣

長野市大字南長野字幅下692-2  
電話 026-235-7452  
FAX 026-235-7490

十九歳の大学生A子さんには、高校時代のアルバイト先で知り合った三歳年上の彼がいます。特別目立つような人ではないのですが、何でも気軽に話すことができ、職場の誰もが優しい人だと認めるそんな彼です。

A子さんは、同和地区出身であることを彼に話してありませんでした。話したいと思いつつ、話せない日々が続いていました。

このことはA子さんにとつて、彼に隠し事をしていくようで、だんだん悪いことをしているように思えてきました。彼と楽しい話をしていても、ふと笑顔が消えてしまう時もありました。

彼がいることを両親は知っていました。A子さんが彼に出身を明かしたかを気にして「話したのか」と、繰り返し聞いていました。A子さんは、両親の心配する気持ちは十分理解できるのですが、何度も言われると「うるさいなあ」と反抗的な言葉が出てしまいます。家でも気持ち晴れな

## この人なら

## 分かっていく

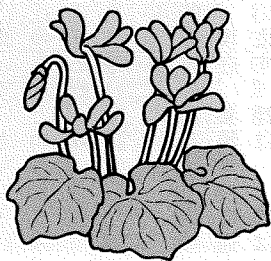
日々が続いたのでした。そしてある日、A子さんは両親に「私、話したんだよ。彼は、関係ないって言ってくれたよ」と、少し複雑な笑みを浮かべながら話しました。

由で離れていくなら、私に人を見る目がなかったんだと、あきらめがつく気がしたの」と明るく話してくれました。

そこで、A子さんが自分の出身を語ることで、離れていく彼でなかったことに安堵しつつも、「関係ある大事な問題として、共に考えてほしい」と語っていく必要を感じていたのでした。

その後、A子さんは、彼を家に連れて来ました。この時父親は、彼に対して、「A子が話したそうだが、家は同和地区です」と改めて語り、家族にとつても、同和問題は大きな問題として考えていることを伝えました。そして、「堂々と付き合っ

A子さんは、話す決心をした理由を「だって私、解放子ども会で九年間も勉強したんだもの。この人なら分かってくれると思えたから・・・話してそれが理



## にこにこする友だち

真田町立長小学校三年

久保萌菜



わたしがひっこしてきた時、みんなにこにこしてくれた。  
「うれしかった」  
みんなと遊んだ時も、にこにこしてくれた。

「うれしかった」  
わたしがころんでない時も、みんなが心ばいして声をかけてくれた。  
わたしはにこにこになった。

わたしは、ひっこしをして、みんなはにこにこしてくれるのに、わたしはできなかった。

それで、何日もたつて、わたしは、はじめてにこにこわらえた。  
なにで、わらったかというとき、  
「絵うまいねえ」と言ったら、  
友だちが

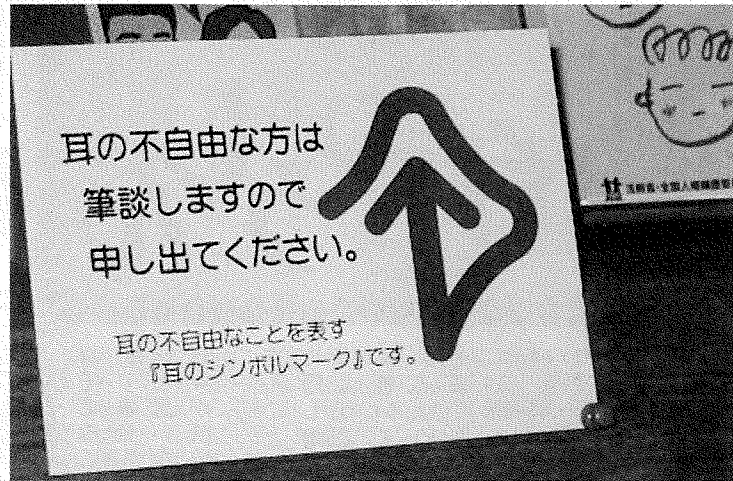
「ありがとう」と言つてうれしかったです。

これからも、友だちににこにこしたいです。

平成十二年度「明るい真田町」より

# 知っていますか

## 「耳マーク」



「耳マーク」は、耳に音が入ってくる様子を↑印で表し、一心に聴き取ろうとする姿勢を象徴したものだそうです。  
 (昭和五十一年、日本身体障害者団体連合会にて全国統一)

先日、上田市役所を訪れた際、住民票や戸籍謄本などの申込書を記入する台の上に、この耳マークが掲示されていること気づきました。市の職員に尋ねたところ、上田市役所では平成十二年六月からこの耳マークカードを市役所の各課に配布し、受付カウンター等に設置しているそうです。この取り組みに際して市では、聴覚に障害のある人への対応についても、以下のように呼びかけました。

- ① 窓口カウンターには、筆談ができるようにメモ用紙と筆記具を置く。
- ② 呼びかけは、手招きや合図等本人にわかりやすい方法とする。
- ③ 聴覚障害者は、相手の話す口を見て読みとりをするので、大きな声を出すよりも相手の顔を見て、はっきりと大きく口をあけて話す。
- ④ わかりにくくて言葉を聞き返したら、筆談するかまたは別の言葉に言い換える。
- ⑤ 筆談の内容は、わかりやすい文章にする。
- ⑥ 筆談は、時間がかかっても親切丁寧に対応する。
- ⑦ 他の部署に引き継ぐときは、その方が聴覚障害者であることを伝える。

私は小さな町工場を経営しています。従業員と共に懸命に働いています。今日は会社のことというよりは、障害のある姪(妹の長女)のことについて話をしたいと思います。

知的障害のある十三歳の姪は、現在、養護学校に通っています。姪は一人ではおいていけないので、妹は仕事をやめていつも付きっきりで面倒をみて来ましたが、そんな妹を見て、私はいつも「妹がかわいそうだ」と思っていました。

そんな妹が最近買物に出かけたり、外に出かけたりする時、私の会社の事務室に姪をあずけるようになりました。最初は私も心配と不安でいい返事をしなかつたのですが、外出もままならない妹のことを思い承諾したのでした。

## 私の発見

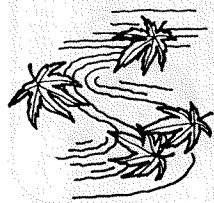
うな姪の笑顔や妹の晴れ晴れした姿を見ると、私もホッとして心が和みます。そして、「また、いつでも連れておいで」と言ってしまうのです。

そんなある日、私は気づいたことがあるのです。

姪は知的な発達は遅れていますが、とても愛想がよい子で、声をかけられると誰にでもニコッと笑って、天真爛漫に笑顔を振りまきます。従業員も休憩時間や事務室に用があるときは、

前は従業員のちよつとしたトラブルがよくあって、その人間関係に気を遣ったことも多かつたのですが、最近減っていることに気づきました。そして、いつもおとなしくしていて、人とのつきあいも少なかつたAさんが、頻りに事務室に来るようになり、明るく姪と関わっている姿も発見できました。姪がいない日は、「どうしたの」と尋ねるのです。そしてちよつと大げさかもしれませんが、会社の雰囲気明るくなり、会社の生産効率も心持ち上がったのではないかと思われるのです。

知的障害のある姪にこんな力があるとは想像もできなかつたことです。人間の価値、その尊さを実感しました。「この世の中の誰もが、必要とされる人間なんだ」このことは、姪の笑顔と会社の従業員のみなさんから教えられたことです。



これは、我社のゴミ収集場所の上に掲示してある廃棄物分類方法を示したポルトガル語の説明書きです。我社では十三年前から外国人労働者を雇用し始めました。当初、いろいろなトラブルが発生しました。

社内では、トイレ使用後に水を流してない。日本語がまったく分からず仕事の手順が伝わらない。不良品が多くなる。宿舍のある地域からは、「燃えるゴミ・埋立ゴミの区別をしないで

困る」と苦情が寄せられました。実はこれは偏見によるもので、会社では、「ゴミの出し方」の市の通知を、外国語に訳して配布してありましたので、分別はしづかりできていました。

このような中で、社内から、彼らと気持ちよく働くための提案が次々に上がってきました。

コミュニケーションをとるために、職場に辞書をおく。トイレの注意書きやほこりを極度に嫌う組み立て

ルームの履き物の入れ方を外国語で示す。作業標準書を外国語に訳す。

また、命を守るための支援にも取り組みました。病院に行く時は、通訳のできる社員が同行する。

外国人社員だけを集めて、消火器の扱い方の研修するなどです。

さて、文頭の表示カードですが、一九九八年、我社はISO1400



- ### SEPARAÇÃO DO LIXO
- 1- LIXO INCINERÁVEL  
(RESTOS DE PAPÉIS - MATERIAL INCINERÁVEL - TECIDOS)  
PAPEL RETALHADO, LENÇO DE PAPEL, LIXO BIODEGRADÁVEL, FRALDAS OU ABSORVENTES, MADEIRAS, COPOS DE PAPEL, TECIDOS, PAPEL CARBONO EM GERAL, EDREDON, ETC.
  - 2- PAPEL RECICLÁVEL EM GERAL  
(EXCEÇÃO DO PAPEL RECICLÁVEL PARA COPIADORAS)  
PAPEL NORMAL PARA COPIADORAS, RECIBOS EM GERAL, ENVELOPES EM GERAL, ETC. \*COM EXCEÇÃO OS PAPÉIS CARBONOS.
  - 3- PAPEL RECICLÁVEL PARA COPIADORAS  
\*NÃO AMASSAR OU NÃO MISTURAR OS PAPÉIS PARA COPIADORAS ACIMA DE 8CM, COM OS ITENS ABAIXO.  
PAPEL COM IMPRESSÃO ESCURA ACIMA DE 30% DA SUPERFÍCIE (FRENTE VERSO), COPIAS COLORIDAS, COM GRAMPOS (CLIPES, ETC), PAPEL COLORIDO, PAPEL COLADO (FITA ADESIVA, PLÁSTICO, ETIQUETA, ETC), PAPEL CARBONO EM GERAL, PAPEL MANCHADO (BARRO, ÓLEO, ETC), PAPEL ESCRITO COM PINCEL ATÓMICO.
  - 4- REVISTAS EM GERAL  
REVISTAS, CATALOGOS, POSTER, ETC.
  - 5- JORNAL EM GERAL  
JORNALS OU PANFLETOS EM GERAL.
  - 6- LIXO NÃO INCINERÁVEL  
VIDROS EM GERAL ( EXCEÇÃO DAS GARRAFAS DE CERVEJA E DE SAKÉ), NÁILON, PLÁSTICOS EM GERAL, BORRACHAS EM GERAL, PAPEL COM NÁILON (CAPA DE LIVRO, ETC), PRODUTOS DE DUPLA MISTURA, PRODUTOS ELETRÔNICOS, ETC.
  - 7- PAPELÃO EM GERAL  
CAIXA DE PAPELÃO OU PAPEL GROSSO EM GERAL.
  - 8- METAIS EM GERAL  
LATAS EM GERAL, FERRO EM GERAL, ETC.
  - 9- ISOPOR EM GERAL  
ISOPOR EM GERAL.
  - 10- FILHAS EM GERAL  
FILHAS OU BATERIAS EM GERAL.  
FILHAS COMUN, DE MERCÚRIO E LÍTUN (FILHAS DE MERCURIO MODULAR SÃO CONTROLADOS SEPARADAMENTE)
  - 11- LCD (CÉLULAS DE CRISTAL LÍQUIDO)
  - 12- PLACAS DE CIRCUITO IMPRESSOS EM GERAL
  - 13- GARRAFAS EM GERAL  
GARRAFAS DE CERVEJA, GARRAFAS DE SAKÉ, ETC

これは何の表示？

### 廃棄物の分類

- 1 焼却ゴミ (紙屑・廃材・布類)
- 2 再生上類 (コピー用再生紙を除く)
- 3 コピー用再生紙
- 4 雑誌類
- 5 新聞類
- 6 埋立ゴミ
- 7 段ボール類
- 8 金属類
- 9 スチロール
- 10 電池類
- 11 LCD (液晶セル)
- 12 基盤関係
- 13 ビン類

※一緒に提示してある日本語表示の概要

1の認証を取得しました。会社を挙げて環境問題に取り組み始めた際、これまでの取り組み経過から、当然のこととして廃棄物分類やゴミ箱に外国語による表示を張り出しました。

このような取り組みや、普段の関わりを通して、社員の意識も当初と変わってきました。今では会社の仲間として、結婚式に招待したりされたり、出産祝いに招かれたり、家族ぐるみのおつき合いをごく当たり前にしています。

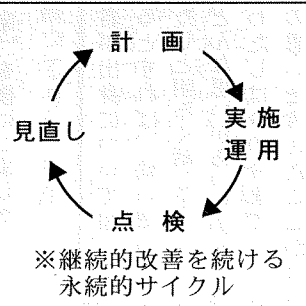
思い返して見ますと、外国人の社員を雇用し始めたからこそ、相手の立場に立つて考え行動することが、すべての社員の中に浸透してき、本心に働きやすい職場になつてきたように感じます。私は、このような会社を誇りに思います。

ISO14000 シリーズとは

ISOとは、一九四七年に設立された「国際標準化機構」の略称です。

ISO14000シリーズは、環境マネジメントシステムの国際規格であり、環境ISOとも呼ばれています。

ISO14001は、企業が生産・サービス・経営を行うにあたって、環境対応の立案・運用・点検・見直しなどの環境管理・監査システムの整備状況を審査し、基準をクリアした企業を認証します。



企業はもとより、長野県庁をはじめいくつかの市町村も取得し、再生紙の利用、廃棄物の分別収集、節電等それぞれ目標を定め取り組んでいます。



# 木洩れ日の中で



さわやかな秋晴れの日、I市の共同作業所「いずみの家」に行きました。玄関前の木洩れ日の間から、笑顔で迎えてくれた三十歳くらいの青年Yさんの話です。

「精神障害者はこわいという見方をする風潮が、まだまだ世の中にあります。精神障害は、風邪や腹痛と同じように誰にでも起こりうる病気です。そして、治療のための薬も向上していて、治癒して社会復帰する人たちも増えてきています。正しく理解すれば決してこわい病気ではありません。病気と上手につき合っていくことができます。」

私も最初は、偏見を持っていました。でも、精神障害者家族会へ入り、そこで社会復帰や社会参加促進のための地域福祉活動に力を入れていた人たちと出会い、一緒に活動することを通して、自分の病気のことを人に堂々と伝えるようになってきました。今は、「いず

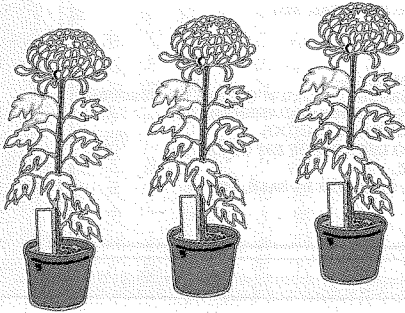
みの家」に通いながら、町の精神障害の会『明るい会』の会長として、地域の人たちに病人たちに病気に対する正しい理解を求めながら、町に通所作業所を造る計画を進めています。また、福祉活動に従事することを将来の自分の道と決め、週一回、社会福祉協議会のデイサービスセンターでボランティアをしています。介護福祉士の資格をとって、介護の道に進むことが目標です。

精神障害は、はためかわかりにくい病気です。目に見えない心の傷、そして治りにくい傷を背負いながら、私たちは精一杯に生きています。その気持ちを社会の人たちに少しずつ分かってもらえたらうれしいです。」

「この病気にかかったことで『福祉の道』という自分の夢ができました」と力強く語るYさんの顔は、生き生きと輝いていました。話し終わるとYさんは、「今日は、短大の学生さんと調

理実習をする日なんです」と、「いずみの家」の隣にある公民館へ案内してくれました。「いずみの家」のみなさんと短大生がマンツーマンで関わり合って餃子作りをしていました。近くにいた学生さんから話を聞きました。

「私は本や講義で精神障害を学んできましたが、それでも『こわい』というイメージがあり、最初は緊張し構えていました。でも、今日で三日目、一緒に活動して触れ合う中で、私が最初に抱いていたイメージが大きく変わりました。みんなとても優しく、楽しい人ばかりです。」



帰り際、所長さんが話されました。「ここにいるとホッとするんですね。安心していられるんですね。ここでは、年齢も性別も違う人たちが、一緒に生活しています。しかし、お互いを比較するとか、競争し

小さい頃、わたしは、明るくふるまい、誰からも好かれていたA君と気が合がよく遊んだ。一緒にお風呂に入ったこともあり、今も会うと思えば話をよくする。

わたしは子どもなりに、周囲の会話から、A君が同和地区出身であることをいつしか知ったが、大人たちの雰囲気の中に触れてはいけない何かを感じていた。当時、A君自身が同和地区出身であることを知っていたか

どうかは分からないが、A君もこのことを話題にしたことはなかった。いつも一緒にいることが多かったのに、そして、今もこのことは変わりがない。

わたしは、地域で行われる同和教育の研修会に、「同和問題のことは理解しているし、A君とも親しくつき合っている。わたしには関

合うということはありません。精神障害になる人は、対人関係でストレスを感じやすい人が多い。いじめなどのつらい体験が原因で病気になることもあります。だからここにいる人たちはみんなお互いを大切にします。お互

係ないことだ」という考えがあり、ほとんど参加してこなかった。

ところが、昨年の春、この地域で悪質な差別事象が起きた。各家庭から必ず一人は出席するようにとの連絡で、久しぶりに学習会に参加した。この時わたしは

いまだにある部落差別に憤りを感じながら、今は他の地域で暮らすA君のことを思い出していた。

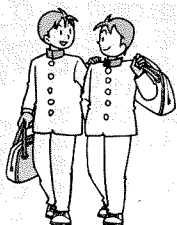
A君には、この差別事象はどのように伝わっているのだろう。A君はどんな思いでこの事象を聞くのだろう。わたしとA君は本当に親しい間柄であると思っていたが、同和問題に触れずにつき合

## A君とわたし

いの気持ちを理解しようと努め、みんな優しく接しています。」

Yさんの笑顔と、所長さんの言葉に送られ、すがすがしい気持ちで「いずみの家」を後にしました。

君が出身について知っているとすれば、幼い頃からわたしと明るく話している中で、どんな思いがあったのだろう。わたしは今の今まで、A君の思いを考えたことがなかった。わたしたちの親しさとは本物なのだろうか。わたしは学習会の内容をほとんど覚えていない。学習会の間、ずっとわたしとA君の関係を自分に問い返していたからだ。そして、今度A君と会う時は同和問題について語り合いたいと思うようになっていく。



※「わたし」と「あなた」そして「みんな」の人権(長野県教育委員会)より